# AGU NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

2014 No.74
[2014年11月～12月号]

## 青山学院大学

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
URL. http://www.aoyama.ac.jp/

特集

## アディダス ジャパン株式会社とのパートナーシップに関する取り組み

## 学生としてできることを懸命にボランティア・ステーションの取り組み

TOPICS 「青山学院創立140周年記念
ステラ・マッカートニー × 滝川クリステル 講演会」を開催
学校法人 青山学院 第14代院長に梅津順一教授が就任
オープンキャンパス・青学フェア（つくば）開催報告
「第66回日米学生会議」に法学部の松居純平さんと藤井一衆さんが参加

AGU Lecture ラボ・アトリエ実習－映像翻訳を通じて世界と関わる－

大学開設65周年
―青山学院の先人たちの名を冠した建築・施設―

**ウェスレー・チャペル（相模原キャンパス）：ジョン・ウェスレー（1703～1791）**

青山学院は、プロテスタント・メソジスト派に属する米国のメソジスト監督教会の宣教師たちによって創設されました。そのメソジスト派の創始者がジョン・ウェスレーです。産業革命の影響で社会全体が急激に変化していた18世紀英国において、キリスト教に基づく新しい生き方を示した民衆運動で指導的な役割を果たしました。その運動が発展し、後に英国国教会から分離してメソジスト派として誕生することとなります。ウェスレーの活動が青山学院の根底にあることが明確になるよう、相模原キャンパスのチャペルはウェスレー・チャペルと名付けられています。

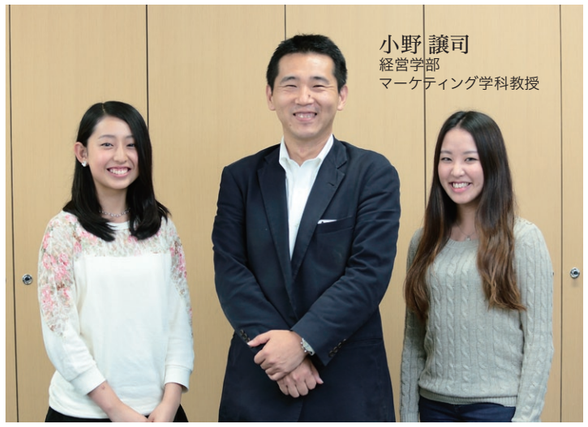
Aoyama Gakuin since 1874

特集

# アディダス ジャパン株式会社とのパートナ ーシップに関する取り組み

2013年11月14日（木）、マルチスポーツブランドのアディダス ジャパン株式会社とスポーツ分野におけるパートナーシップ契約を締結したことにより、本学では2014年度から共同実施事業を開始しました。前期にアディダス ジャパン株式会社からの講師派遣によって実施された経営学部マーケティング学科必修の授業「マーケティング・ベーシックスI」をはじめ、学内で展開されている取り組みをご紹介します。

## 経験から学ぶ「マーケティング・ベーシックスI」



小野 譲司
経営学部
マーケティング学科教授

### マーケティングの現場をいきなり疑似体験

経営学部マーケティング学科必修の専門科目「マーケティング・ベーシックスI」は、1年生を対象に、PBL（Project-Based Learning：問題解決型学習）方式で行っています。2コマ連続（90分＋90分）の授業を6週間展開する中で、実際の企業活動を疑似体験しながら社会で必要とされる力を身に付け、論理的な思考力を養っていきます。この授業において、アディダス ジャパン株式会社にご協力いただき、本学OBを含む3名の社員を講師に迎えました。本学科でマーケティングを学ぼうと意気込んで入学した学生たちのモチベーションに応える、実践的な取り組みです。『「adidas NEO」スポーツカジュアルスタイルを提案するレーベルの売上を20%伸ばすためのマーケティング提案』という課題が設定され、まだ高校を卒業したばかりの1年生は戸惑いながら、このプロジェクトに取り組みました。

### 自分の力不足を自覚することから始まる

授業は、1チーム5人編成のグループワークで行います。調査や企画検討を経て中間発表を行い、企業からのフィードバックを受けてさらに再検討し、最終発表へとつなげます。まず初めは自由にアイデアを出すのですが、どういう意図でそのアイデアを出しているのか、学生たち自身もわかっていません。まずは各自が取り組み、その結果について指導することで、学生たちは力不足を自覚する。その試行錯誤の経験が成長につながるのです。順調に進むチームもあれば、うまくいかないチームもありますが、それも社会に出れば当たり前のこと。この授業では、単にマーケティングだけではなく、コミュニケーションやチームワーク、リーダーシップの重要性を学んでいくのです。

### 実践的な導入で広い教養を身に付ける

この授業のキーポイントとなるのは、4回目の授業で行う中間発表です。それぞれのチームに対して、企業側が容赦のないコメントを出します。アディダス ジャパンからは「根拠がない」「ターゲットをもっと明確に」と、実際のビジネスにおいても同様であろうと思われるほど厳しいコメントをいただきました。ただここで大事なのはそこから奮起して這い上がれるかどうかで、学生たちの成長に違いが出ます。実は実践的であることがこの学びの真の狙いではありません。論理的にものごとを考える、仮説を作って検証する、論文を書くなど、大学生として必要な力、広い意味での教養を身に付けることです。マーケティングを入口として深く考える力を養うことは、10年、20年先を見据えた時に本人にとって必ず役立つはずです。

こうした産学連携の取り組みは、学生を社会に送り出す大学の役割としても大きな意味がありますし、アディダス ジャパンのように広く知られた企業と取り組めるのもパートナーシップを結んだからこそ。この組織的な関係を生かして次年度以降も継続的に実施していきたいと考えています。

榆井（にれい） みのりさん
経営学部マーケティング学科1年
神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校出身

### 打ちのめされる経験が、這い上がる力につながりました

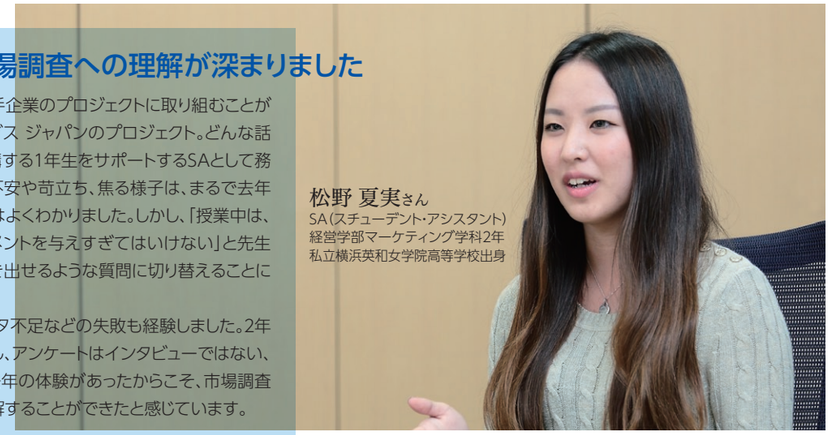
高校までと同じように「先生が教えてくれる授業」を想定していただけに、何もかも自分たちで進めることに最初はとても戸惑いました。グループワークもぎくしゃくしていて、自分は何をやっているんだろうと、コミュニケーション力のなさに自信をなくし、授業が進むにつれて焦りを感じていました。わからないことをSA（スチューデント・アシスタント）の先輩に質問しても何も教えてくれません。逆に「その裏付けは何?」と、こちらが問われるばかりです。最初はその真意がわかりませんでしたが、質問されることで、自分たちの考えが足りないことや、アイデアの裏付けがないことに気づかされました。悩み続け、厳しい評価を得た分、別のプロジェクトではチーム内の温度差をなくし、根拠のあるプレゼンテーションへと意欲的に取り組めたように思います。

実際のマーケティング経験によって、世の中の商品に対して「ターゲットは誰なのか」「コンセプトは何か」と、以前とは違う捉え方ができるようになりました。徐々に芽生えてきた広告業界への関心を、さらなる学びや就職活動へとつなげていきたいです。

### 実際の体験で、市場調査への理解が深まりました

この授業では、誰もが知るような大手企業のプロジェクトに取り組むことができます。今年は外資系企業、アディダス ジャパンのプロジェクト。どんな話が聞けるのだろうと興味が高まり、受講する1年生をサポートするSAとして務めることを希望しました。後輩たちの不安や苛立ち、焦る様子は、まるで去年の自分たちを見ているようで、気持ちはよくわかりました。しかし、「授業中は、たとえ1年生が困っていてもあまりコメントを与えすぎてはいけない」と先生から言われていたので、自ら答えを導き出せるような質問に切り替えることに苦労したものです。

この授業では、的外れな調査やデータ不足などの失敗も経験しました。2年生になって「マーケティング論」を履修し、アンケートはインタビューではない、目的も手法も違うことを学びました。去年の体験があったからこそ、市場調査の本質を学ぶ講義とリンクして深く理解することができたと感じています。



松野 夏実さん
SA（スチューデント・アシスタント）
経営学部マーケティング学科2年
私立横浜英和女学院高等学校出身

## 青山学院大学 × adidas Group Women's Project Team

### 本学学生がadidas Women's商品の企画・マーケティングに挑戦!

アディダス ジャパンは10代後半から20代の女性向けのトレーニングウェアやランニングウェアの商品開発にあたり、本学学生からプロジェクトメンバーを募集します。

応募企画書のテーマは「ヒット商品をつくる」。商品のアイデアから販売プロモーションまで、3名編成によるチームでプレゼンテーションを行い、選考を勝ち抜いた2チームが最終的に企画に参加します。

学部学科に関係なくアディダスが好きでマーケティングに興味のある学生が、adidas Women's Project Teamの一員となって取り組める貴重な機会。

右記スケジュールで進行し、アディダス六本木オフィスで企画会議や課題に取り組み、2015年秋冬商品として商品化される予定です。

**スケジュール**

| | |
|---|---|
| ①企画書提出 | 10/24（金） |
| ②最終選考会 | 11/5（水） |
| ③合格チーム発表会 | 11/12（水） |
| ④第1回企画会議 | 11/26（水） |
| ⑤第2回企画会議 | 12/17（水） |
| ⑥最終プレゼンテーション | 1/21（水） |

※日程は変更となる場合があります。

## 円陣ムービー「輪になれ、AOGAKU篇」

### 本学学生の団結力を公式チャンネルでチェックできます

「輪になれ、日本。」というキャッチフレーズのもと、先のサッカーワールドカップでの勝利を目指してひとつになろうと発足したアディダス ジャパンの「円陣プロジェクト」。その一環として制作された「輪になれ、AOGAKU篇」ムービーが、YouTubeのアディダス ジャパン公式チャンネルにアップロードされています。「マーケティング・ベーシックスI」のオリエンテーションに訪れた社員の方々の「みんな一緒にがんばろう!」という提案から急速に話が進み、2014年5月21日（水）に青山キャンパスにて撮影が行われました。マーケティング学科の学生がサッカー日本代表のユニフォームカラーのテープを身に着けて肩を組み、一致団結の熱い想いを笑顔で表現しています。

## パートナーシップ締結 × 本学65周年記念ユニフォーム授与式

### アディダス×青学の特別ユニフォームが贈呈されました

本学では、「アディダス ジャパンとのパートナーシップ契約締結における今後の活動に期待すること」を学内募集しました。自由記述による期待コメントが、学部生、大学院生から合計1,230件も寄せられ、仙波学長が10名を選抜し、2014年5月28日（水）、学長室にて、サッカー日本代表ユニフォームに青学ロゴと大学開設65周年記念（AGU 65th Anniversary）マークが入った特別ユニフォームを贈呈しました。授与された学生たちは早速ユニフォームを着用し、パートナーシップ活動企画への参加意欲を高めていました。

特集 AGUVS AGU VOLUNTEER STATION 活動報告

# 学生としてできることを懸命に ボランティア・ステーションの取り組み

**東日本大震災以降、ボランティア活動を希望する学生と協力を求める地域とを結ぶ組織として発足したボランティア・ステーション。企画も運営も学生が中心となって行い、この夏も国内外で有意義な活動が展開されました。４つのプロジェクトそれぞれの活動内容と成果、そこから見えてきた今後の課題について、学生代表とそれぞれのプロジェクトリーダーから話を聞きました。**

## 塩竈プロジェクト（宮城県塩竈市）

活動期間：8/9〜9/14　参加学生数のべ115名

経営学部 経営学科3年　磯村 亮太朗さん（学生代表）

総合文化政策学部 総合文化政策学科3年　森田 剛さん

塩竈市の本土内と浦戸諸島での「教育支援」、「経済復興支援」が活動の2本柱です。教育支援では、小・中学校のサマースクールに、補助として大学生が入り学習指導をすることで、塩竈市の小・中学生の学力向上を目指しました。勉強を教えるだけでなく、一緒に部活動に参加することで子どもたちとの距離感を縮めました。また、市内の保育所で保育士のサポートなども行いました。

経済復興支援では、浦戸諸島における海苔や牡蠣の養殖作業や草刈り、海岸清掃などを行いました。また、島では定住人口を増やす取り組みが行われています。その一環として、以前避難場所として利用していた廃校を漁業就労者の宿泊施設に改修するため、廃校の荷物移送作業も行いました。その他、塩竈市の魅力を外部に発信するためのWEBマップとPR動画も作成。仲間の存在に支えられ、本気で取り組むことができた学生も少なくありません。今後はさらに、時とともに変化するニーズに適応できる活動を考えていきます。

## 陸前高田プロジェクト（岩手県陸前高田市）

活動期間：8/7〜8/13　参加学生数：11名

国際政治経済学部 国際政治学科3年　米澤 理音さん

今年度は福祉や教育、地域を見据えた活動に取り組みました。就労継続支援事業所「あすなろホーム」では、わかめの加工や商品の袋詰め作業などを通じて就労者と交流を深めました。また、「陸前高田思い出の品」では被災者の方々の思い出の品のカタログ作りを手伝いました。そして、気仙中学校グラウンドの仮設住宅集会所では、中学生たちの学習支援を実施。学習環境が整っているとはいえない状況の子どもたちに勉強を教えるだけでなく、後で復習できるよう、また保護者の方にも伝えられるように記録ファイルを作成し、一人一人に手渡しました。

現地では奇跡の一本松や、13mを超える津波に襲われた「道の駅『高田松原』タピック45」の建物なども見学。震災当時のお話を現地の方々からお聞きしたことは、震災の痛みを直に感じられる経験でした。震災をひとごとで終わらせないことの重要性やボランティア活動の根本的な意義を学生同士で話し合い、今後の活動に活かしていきます。

## フィリピンプロジェクト

活動期間：8/12〜8/25　参加学生数：8名

国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科2年　谷田部 悠亜さん

2013年度に引き続き、シキホール島の小学校を訪問しました。教材などが不足し、教科書と鉛筆のみで授業を行うことが多いこの島の学校で、日本人との交流によって普段の授業ではできない体験をすること、そして子どもたちに心から楽しんでもらい、笑顔にすることが本プロジェクト最大の目的です。大縄跳びやバレーボールなど屋外での遊びに加え、鍵盤ハーモニカや折り紙といった室内でも楽しめる遊びも企画。さらにソーラン節の踊りを教えて一緒に踊るなど、とにかく子どもたちと一緒に身体を動かしながら交流を深めました。

ただ一緒に遊ぶだけではなく、何が現地の方々のためになることなのかを常に考えていなければなりません。グラウンドも整備されていない小学校が多い上、音響設備がない学校や教室が野外にある学校など、学校の状況によって望まれる支援も異なります。「気づき、考え、行動する」ことを常に意識できるようになったことは、大きな収穫でした。

## 伊豆大島プロジェクト（東京都大島町）

活動期間：第1陣8/26〜8/28　第2陣8/29〜8/31　参加学生数：のべ31名

教育人間科学部 教育学科3年　久保田 千穂さん

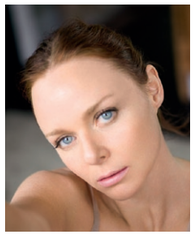
2013年10月、土石流災害で甚大な被害を受けた伊豆大島での初プロジェクトは、当時の被害状況や現地ボランティアセンターの役割を知ることから始めました。大島社会福祉協議会の方にご協力いただき、被害が大きかった元町神達地区周辺を歩くスタディーツアーを実施。地元住民の方やホテル経営者の方から被害状況をお聞きし、山から流れ出た土砂の跡も実際に目で見て、土石流災害の恐ろしさに向き合いました。

いまだに流れ着いた土砂が残り、一部でしか海開きができていない弘法浜の清掃も実施。海岸にはいまも多くのゴミが打ち上げられており、1陣・2陣ともに1時間の清掃で拾った量はゴミ袋5つ分にもなりました。また、激減した観光客を呼び戻すため、地元の子どもたちと元町を散策して「元町自慢マップ」を作成。これは青山祭で展示し、動画とともに広報活動を行い、災害を風化させないよう、今後も大島の被害と復興を目指す現在の姿を伝えていきます。



TOPICS

# 青山学院創立140周年記念 ステラ・マッカートニー × 滝川クリステル 講演会を開催



**ステラ・マッカートニー**

Profile

イギリスのファッションデザイナー。2001年、自身のブランド「Stella McCartney」を立ち上げ、レザーやファーを使用しないレディ・トゥ・ウェアをはじめ、アクセサリーやフレグランス、スポーツウェアなど多岐にわたるコレクションを展開。環境や社会貢献に配慮した「エシカルファッション」のパイオニアともいえる存在。2012年ロンドンオリンピックでは、イギリス代表のユニフォームデザインを担当した。

**滝川 クリステル**

Profile

フリーアナウンサー。青山学院大学文学部フランス文学科卒業。キャスター、ナレーターのほかエッセイスト、動物愛護団体代表など幅広く活動している。2013年には『東京2020オリンピック・パラリンピック招致"Cool Tokyo"アンバサダー』を務め、IOC総会で招致プレゼンテーションを行い2020年の東京開催に大きく貢献した。

2014年7月17日（木）、青山学院講堂において、「ステラ・マッカートニー × 滝川クリステル 講演会」が開かれました。お二人は互いの考えや活動をリスペクトし合う友人という間柄。この日は、司会のハリー杉山氏を交え、「女性の生き方」「社会とのつながり」をテーマにさまざまなお話をされました。

お二人は動物愛護の活動を通じて親交を深めてきましたが、活動のきっかけを問われると、「日本のペットに対する扱いへの疑問からでした。楽しく幸せな一生を送るのは人間だけの権利ではないはずなのに、動物が追いやられてしまっている。初めはニュースを通じて発信し、いまではライフワークとして取り組むようになりました」（滝川氏）、「一人一人が"どういうものを食べるか、どういう服を着るか"を意識することも大切です。私がビジネスとしているファッションデザインは、皆さんに選択肢を与えるためのものだと考え、情報を発信しています」（マッカートニー氏）とそれぞれの思いを明かします。

マッカートニー氏は動物愛護の観点に留まらず、オーガニック素材やペットボトルのリサイクル素材を使用するなど、ファッションデザインを通してエコロジカル、エシカル（倫理的）、サスティナブル（持続可能）な社会を実現する活動を展開しています。ご自身の活動について、「ファッション業界があることで年間約5,000万もの動物の命が奪われている現状が、エシカルかサスティナブルかをデザイナーとして考えることはとても重要です。しかし、同時によいもの、次の世代につながるものを作らなければなりませんし、みんながそれを欲しいと思うものでなければ意味がありません。一つの製品を作りあげる上で、関わってくる材料の調達や製法などからしっかり取り組んでいくことで、よりよい方法にたどり着けるはずです。私が進めているビジネスモデルが成立することを示していきたいと思っています」と語り、「1回だけのPRのためにするのではなく、私たちの活動として長期的に行っていくことが大切」と続けました。

一方滝川氏も、環境省の地球いきもの応援団やWWF（世界自然保護基金）ジャパン顧問を務めるほか、福島県浪江町で被災し、取り残された犬の里親になるなど精力的に活動しています。さらに、2014年5月には人間を含む"いきもの"が共存・共生し、調和する社会の実現を目指して一般財団法人『クリステル・ヴィ・アンサンブル』を設立。これについて滝川氏は、「オリンピック・パラリンピックの招致活動を終えて、このタイミングを逃してはいけないとの思いから設立しました。2020年までに"いきもの"との共存が感じられる日本、東京であってほしいという願いが込められています。いろいろな人と思いを共有し、人と企業を大きく動かすことができるようにしたい」と語りました。

力強い活動を展開しているお二人のモットーは何でしょうか?との問いにマッカートニー氏は「重要なのは新しいアプローチ。それにはもちろん責任も伴いますが、何もしないより、些細なことでも始めてみればいいと思っています。今の自分のやり方を変えたり、少し注意深く見てみたりと、人と異なるアプローチをしてみることも考えてもらえたら」と、滝川氏は「一人の活動は小さいかもしれないけど、やがて大きな力になることを信じています。女性が活躍することが社会的に確立されはじめている中で、消費のキーを握っているのも女性。女性が日頃消費するものや使うものにどれだけ気を遣うか、注意するかで、消費の流れも変わり、生産する側もこちらが意思表示することで考えます。一つのアクションで流れはどんどんと変わっていきますし、そんな意識や行動につながることを起こせればいいなと思っています」と語り、まだまだ話が尽きない中で終幕を迎え、お二人は約1,800人の聴衆の大きな拍手に送り出されるように会場を後にしました。

TOPICS

## 学校法人青山学院 第14代院長に梅津 順一教授が就任

総合文化政策学部の梅津順一教授が7月1日(火)付で第14代院長に就任しました。梅津院長は就任挨拶の中で「創立140周年という記念の年に第14代院長に就任するにあたり、青山学院の建学の精神と教育方針を堅持し、神の御助けを信じて職責を果たしていきたい」、さらに、三つの抱負として、「第一に“チーム青山学院”の一員であることをすべての教職員や関係者に呼びかけたい、第二に青山学院は初心を忘れず、将来への夢とビジョンを掲げた学校として社会に貢献するものでありたい、第三に創立140年の歴史を振り返り、良き伝統を再確認して将来へつないでいきたい」と述べ、最後に祈祷を捧げました。

## オープンキャンパス・青学フェア(つくば)開催報告

2014年度のオープンキャンパスは、事前申込制で合計4日間開催しました。

いずれの日程も多くの受験生/保護者に来場いただき、総来場者数は昨年を超える31,986名(青山キャンパス合計28,921名　相模原キャンパス　3,065名)となりました。模擬授業やキャンパスツアーのほか、ボランティアとして多くの在学生の協力を得ることで、受験生と在学生が直接触れ合うことのできる機会を多く設けました。

また、大学・学部紹介イベントである「青学フェア」を6月のさいたま会場に引き続き、9月14日(日)につくば国際会議場で開催しました。来場者からは「学生が語る青学ライフがとても参考になりました」「地球社会共生学部にとても興味を持ちました」などの感想をいただき、好評のうちに幕を閉じました。

## 「第66回日米学生会議」に法学部の松居純平さんと藤井一衆さんが参加。次年度の実行委員にも選出されました。

松居 純平 さん
法学部法学科4年
国際基督教大学高等学校出身

日米学生会議は、1934年に創設された日本初の国際的な学生交流団体で第1回会議は青山学院で開催されました。創設80周年を迎えた今年の会議は、8月2日(土)～25日(月)にかけて米国(アイオワ、カリフォルニア、ニューヨーク、ワシントンD.C.)で行われ、日米の学生36名ずつ、合計72名が参加し、7つの分科会に分かれ、それぞれのテーマについて発表を行いました。本会議中は、さまざまな企業や専門家との意見交換をはじめ、外務省や大使館、米国議会等でのハイレベルな討論への参加の機会がありました。

会議で自分の英語力や説得力を試したいと考えていましたが、逆に自分自身の未熟さを痛感。また、リーダーシップについても、自分では“先導型”のリーダー像を描いて臨んだのですが、実際は“調整型”だったように思います。“調整型”は分科会を一つにまとめあげる点で有効でしたが、仲間を巻き込んで先導するリーダーもいて、状況に合わせて上手く使いこなすリーダーシップを今後身に付けたいと感じました。

以前から日米学生会議の存在は知っていましたが、前実行委員長や実行委員の方の熱意をもって考え、行動する姿に心を打たれ応募しました。そして、想像を上回った日米学生会議の魅力に心を動かされ、来年開催される第67回日米学生会議の実行委員長に立候補し、選出されました。新しい日米学生会議を創る過程で、自分の長所をさらに伸ばし、短所を克服することができるように常に意識していきたいと思います。“参加して良かった”と思える最高の会議を用意しますので、ぜひ、皆さんのご応募をお待ちしています!

藤井 一衆 さん
法学部法学科4年
茗渓学園高等学校出身

米国大使館主催のイベントでチラシを見て興味をもち、参加しました。語学力向上や文化交流とは一味違う、学生運営だからこそ自由に議論を最後まで追求できる点に大いに惹かれました。8月の本会議に先立ち、日本で合宿や研修、勉強会などを通して、多くの知識を吸収しながら他の参加者や専門家の方々と議論を重ねました。

渡米後はアメリカ側の参加者と合流して、それまでに蓄えた専門知識のアウトプットをメインに議論し、ファイナルフォーラムの準備を進めました。また、先住民が住む地域への訪問やホームステイ先での交流など多様な経験もできました。私が選択した分科会は「日米関係におけるスマートパワー」。国際関係、特に安全保障分野に興味があり、アメリカ人と徹底的に議論したいと考えていましたが、意見の対立などから議論が進展せず苦労しました。何度も話し合いを重ねて克服。ファイナルフォーラムでのプレゼン後、在米日本大使館職員の方からぜひプレゼン内容を外務省で参考にしたいと言われたときは、本当に努力したかいがあったと感じました。

「自分で考え、決断し、行動すること」を学んだ本会議では、貴重な体験と見聞で得た知識、ここでしか出会えない仲間たち、交流を通して構築したネットワークなど多くの収穫がありました。さらに、自分の夢・目標の達成のため、それらをどう活かすかを考えることが大切だと考えています。来年は実行委員会メンバーとして松居実行委員長と共に会議の運営に携わり、将来は国際公務員になることを目指しています。

*AGU Lecture 073*

# ラボ・アトリエ実習

## ―映像翻訳を通じて世界と関わる―(通称：映像翻訳ラボ)

宮澤 淳一
総合文化政策学部 総合文化政策学科教授・本学外国語ラボラトリー所長

本学部における「政策」という言葉には、プロデュースやマネジメントという意味が含まれています。それを実践的に学ぶのが2・3年次選択科目の「ラボ・アトリエ実習」です。青山学院アスタジオを拠点に、文化関連企業や専門家など外部機関の協力を得ながら、15ほどのプロジェクトが進行中です。私が担当するプロジェクトは、「ショートショートフィルムフェスティバル」や「UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)難民映画祭」に出品される本邦初上映の作品を翻訳し、字幕を付けるのが主な活動で、日本映像翻訳アカデミーの指導協力を受けて進めています。

劇場で実際に公開される映画の字幕製作に学生が携われるというのは、珍しいことですが、さらに今年の各種の映画祭では、担当する作品を学生に選ばせてもらえました。まずはグループに分かれて候補作を検討します。仲間と分担して調べた情報をグループで発表し合い、ディスカッションの末、青学生として扱う作品を決定します。翻訳作業以前のこのような活動も、学生たちにとっては重要なプロセスです。

英語圏以外の珍しい言語で作られた作品の場合、すでに英語字幕が付いています。その日本語翻訳を手掛けることになりますが、作品の真意を読み取るには、できるだけ原語から理解するのが望ましいので、正確を期するためにネィティブ・スピーカーに確認を求めたり、該当国の大使館に地名や人名の表記を問い合わせることもあります。1本の映画の字幕翻訳を通して、学生たちは社会との関わり方を学んでいるのです。また、彼らが翻訳作業以上に大きな成長を遂げるのは、映画祭の後に行う自主上映会です。マネジメント、プロモーション、リサーチの3つのグループに分かれ、企画、宣伝、当日の運営に至るまで、すべて学生自らの手で行わせました。上映会にはゲスト講師を招き、ポスターで告知し、作品への理解を深めてもらおうとパンフレットも作製。自主的な行動とチームワークによって「上映会を成功させた」という達成感が、学生一人一人にとって大きな自信につながったと思います。

このように、本学部では、総合的、実践的な力を養う取り組みをしています。知識、教養、経験と、学生が学ぶべきことは沢山ありますが、今大学で教えるべきもの、今身に付けさせるべきものは何か、私自身も教員として常に見極めていなければならないと考えています。

学生たちが製作した映画祭のチラシ▶

**映像翻訳ラボ学生**
伊海 美季さん
総合文化政策学部
総合文化政策学科3年
私立加藤学園暁秀高等学校出身

大好きな英語にたくさん触れられるだろうと、2年次で選択しました。想像していたほど英語漬けではありませんが、3年次になった今年も映像翻訳ラボの授業をまた履修しようと思ったのは、映画祭に出品する作品に日本語字幕を付けるだけではない、それ以上の大きな魅力を昨年の授業で感じたからです。

昨秋の「UNHCR難民映画祭」用に手掛けたのは、中部アフリカからフィンランドに移住する母子を追ったドキュメンタリー。作品の真意を正しく翻訳できるように、該当地域の情勢や歴史について、詳しく調べました。作品の向こう側にある世界の情報を得ながら、訳文の表現についても皆で検討します。字幕は規定時間の文字数が限られており、作業は苦労の連続。何より、一般公開される映画ですから納品日も厳守しなければなりません。厳しいプロ意識が求められ、緊張感にあふれた活動でしたが、社会とつながっている実感がわきました。その後の自主上映会では、プロモーション部門を担当し、さらに幅広い行動力が身に付き、一段と大きなやりがいとチームワークの大切さを感じました。

今年はマネジメント部門のリーダーとして、スケジュール管理を担当しています。チームワークを重視し、2年生の意見も引き出して良い作品に仕上げたい。後輩たちにも、昨年私が感じたような達成感を味わってほしいと思っています。

# Information

## 2014年度 給付奨学金・学業奨励賞

青山学院大学給付奨学金は、各学部に所属する2年生以上の学生で、前年度において卓越した学業成績をあげ、かつ人物において優れている者を対象に、有為な人材の育成に資することを目的に学資金が給付されます。また学業奨励賞も同様の資質を持つ学生を対象に、学業奨励に資することを目的に贈られます。

2014年度は7月9日(水)、青山キャンパス　ガウチャー記念礼拝堂にて授与式が行われました。

### 〈大学給付奨学金〉

文学部／金子 愛理トゥリサ
文学部／荒木 英代
文学部／菅藤 如水
文学部／林 明日美
文学部／對馬 紗弥加
文学部／須藤 ひかり
教育人間科学部／鈴木 佳純
教育人間科学部／佐藤 菜々子
教育人間科学部／前田 綾美
経済学部／都筑 研哉
経済学部／浅井 健太郎
経済学部／長澤 誠
法学部／遠藤 翔太
法学部／大澤 櫻
法学部／西尾 梨紗
経営学部／兼武 沙吏
経営学部／下村 智恵子
経営学部／瀬良 有里奈
国際政治経済学部／越沼 舞
国際政治経済学部／北田 ちなみ
国際政治経済学部／田中 綾
総合文化政策学部／西村 七瀬
総合文化政策学部／深見 麻穂
総合文化政策学部／三井田 春香
理工学部／石井 智大
理工学部／本多 夏穂
理工学部／中野 智志
理工学部／田下 俊樹
理工学部／市川 雄一朗
理工学部／塚本 健太
社会情報学部／古川 克彦
社会情報学部／今村 菜津子
社会情報学部／小菅 優太
以上33名

### 〈大学院給付奨学金〉

文学研究科／佐藤 織衣
文学研究科／岡崎 明子
文学研究科／日野原 慶
文学研究科／栗原 唯
教育人間科学研究科／真嶌 理美
教育人間科学研究科／加藤 由以
経済学研究科／高 歌
経済学研究科／吉田 佳奈子
経営学研究科／姚 靖萱
経営学研究科／ABDULRAHMAN KHADIJA
国際政治経済学研究科／佐藤 仁美
国際政治経済学研究科／吉村 貴幸
国際政治経済学研究科／関根 章江
国際政治経済学研究科／多田 晴美
総合文化政策学研究科／山本 綾香
総合文化政策学研究科／浅野 阿礼
理工学研究科／霜田 治朗
理工学研究科／山﨑 駿
理工学研究科／鬼塚 日奈子
理工学研究科／上田 茜
理工学研究科／須藤 祥稔
理工学研究科／伊藤 広陽
理工学研究科／服部 真智
理工学研究科／是永 敬介
理工学研究科／山下 裕明
社会情報学研究科／坂口 広大
社会情報学研究科／柿崎 大司
社会情報学研究科／小林 惠子
国際マネジメント研究科／井上 裕介
国際マネジメント研究科／林 才寛
国際マネジメント研究科／齋藤 頼貴
国際マネジメント研究科／作田 順治
国際マネジメント研究科／原田 正規
国際マネジメント研究科／三宅 健介
以上34名

### 〈学業奨励賞〉

文学部／上代 佳苗
文学部／小林 彩乃
文学部／原 真衣子
文学部／院南 英里香
文学部／小野寺 南美
文学部／村石 沙也香
文学部／若林 知実
文学部／小川 あゆみ
文学部／末政 翔子
文学部／服部 江津子
文学部／飯島 百合子
文学部／岡村 真智子
文学部／石橋 栞
文学部／小林 千鶴
文学部／初海 正明
文学部／伊藤 理穂
文学部／永田 葉澄
文学部／加藤 有沙
文学部／小島 千晶
文学部／味澤 万里亜
文学部／岩井 康平
文学部／本澤 千宏
文学部／高橋 葵
教育人間科学部／長谷川 絢香
教育人間科学部／前川 佳奈実
教育人間科学部／石田 青葉
教育人間科学部／大家 千晶
教育人間科学部／髙橋 美佳
教育人間科学部／廣瀬 太美
教育人間科学部／澁谷 恵美
教育人間科学部／金子 真美
教育人間科学部／浅田 叶恵
教育人間科学部／井村 昌子
経済学部／漆間 唯人
経済学部／小宮 杏奈
経済学部／白石 理恵
経済学部／奈良井 亮太
経済学部／飯田 夏帆
経済学部／佐藤 弥寿治
経済学部／関 梓沙
経済学部／増山 尚大
経済学部／遠藤 晴人
経済学部／中西 誉
経済学部／舟田 彩華
経済学部／村田 華織
経済学部／一ノ瀬 朝子
経済学部／冨久田 萌乃
経済学部／仁科 宏二郎
経済学部／新田 円香
法学部／河合 彩夏
法学部／北 龍悟
法学部／塩野 義則
法学部／鈴木 貴之
法学部／長橋 佑太朗
法学部／小林 雅史
法学部／坂井 愛
法学部／鈴木 麻文
法学部／田中 千花乃
法学部／細野 友志
法学部／今井 佳澄
法学部／佐藤 北斗
法学部／志村 敬一
法学部／鳥羽 孝明
法学部／八幡 詩織
経営学部／小倉 優
経営学部／富永 洸太郎
経営学部／藤間 結
経営学部／遠藤 雅也
経営学部／金 鉉知
経営学部／鋤柄 結衣
経営学部／服部 佑樹
経営学部／小堀 紗也華
経営学部／小間 鈴夏
経営学部／杉田 知美
経営学部／矢木 麻織香
経営学部／木村 由樹
経営学部／朝井 いずみ
経営学部／山谷 直緒
経営学部／大池 智之
経営学部／可児 沙咲
国際政治経済学部／渡邊 康宏
国際政治経済学部／野村 るり
国際政治経済学部／鬼頭 晃太郎
国際政治経済学部／祖父江 友希
国際政治経済学部／大橋 奈歩
国際政治経済学部／連 海珮
国際政治経済学部／DOAN TRANG HONG
国際政治経済学部／奥田 理紗子
国際政治経済学部／三浦 眞琴
総合文化政策学部／伊知川 美聡
総合文化政策学部／小川 菜摘
総合文化政策学部／室伏 美侑
総合文化政策学部／伊藤 駿
総合文化政策学部／柴﨑 みなみ
総合文化政策学部／福地 沙綾
総合文化政策学部／島野 萌
総合文化政策学部／水島 知美
理工学部／勝倉 大輔
理工学部／熊井 翔
理工学部／田口 智久
理工学部／稲葉 保奈美
理工学部／大木 彬史
理工学部／河瀬 一平
理工学部／中尾 遼太
理工学部／齋藤 翔斗
理工学部／中野 琢已
理工学部／米川 陸
理工学部／森本 崇志
理工学部／河合 伸人
理工学部／田中 裕人
理工学部／清水 理恵子
理工学部／藤井 駿
理工学部／渡辺 峻
理工学部／佐々木 亮輔
理工学部／寺島 貴大
理工学部／冨田 優人
社会情報学部／大田 孝輔
社会情報学部／福泉 弘樹
社会情報学部／山本 健太
社会情報学部／尾﨑 友理子
社会情報学部／高松 誠志郎
社会情報学部／菱沼 阿連
社会情報学部／梁 嘉欣
以上123名

## 進路・就職センター／進路・就職課の利用案内

大学卒業後の進路は、就職(企業・公務員・教員)、大学院進学、各種資格試験準備と多様化しています。青山キャンパスの進路・就職センターならびに相模原キャンパスの進路・就職課では、学生の皆さんの多様な進路に対応し、卒業後までを見通した柔軟で的確なキャリア・サポートを目指しています。年間を通して、①きめ細やかな個別相談、②350以上の進路・就職支援行事、③各種資料・情報の提供を実施し、一人一人が「納得のいく進路選択」ができるように、スタッフ全員で支援していきます。

### 就職活動の流れ

※民間企業の一例です。業界・職種、公務員、教員、進学など目指す進路によって異なります。

| | 3年生 | | | | | | 4年生 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | ～3月 |
| 自己分析 | | | | | | | | | | | | |
| 業界・企業・職種研究 | | | | | | | | | | | | |
| 履歴書・エントリーシート提出 | | | | | | | | | | | | |
| 会社説明会・企業セミナー | | | | | | | | | | | | |
| OB・OG訪問 | | | | | | | | | | | | |
| 採用試験(筆記試験・面接) | | | | | | | | | | | | |
| 内々定 | | | | | | | | | | | | |

### 支援体制

**個別相談**

青山キャンパスでは職員14名、相談員9名が、相模原キャンパスでは職員5名、相談員2名が、常時個別相談にあたっています。ともに考えて話し合うことで、一人一人が納得のいく進路・就職ができるように支援を行っています。

相談内容は多岐にわたり、自己PRやエントリーシートの確認、業界研究の方法といった就職に関することのほか、進学や留学等、それぞれの進路に応じたきめ細かい対応を心がけています。就職活動に関する悩みを一人で抱え込まずに、気軽に相談に来てください。

| 青山キャンパス | |
|---|---|
| 月～金 | 9:30～11:30　12:30～19:00<br>(資料室は9:00～19:00) |
| 土 | 9:30～12:00(資料室は9:00～13:00) |

| 相模原キャンパス | |
|---|---|
| 月～金 | 9:00～11:30　12:30～17:00 |
| 土 | 9:00～11:30 |

※青山キャンパス個別相談 午後の部は予約制です。
※上記の他にもさまざまな行事を開催しています。日程・場所などの詳細は学生ポータル、Web Ash、掲示板で確認してください。

**主な進路・就職支援行事(11, 12, 1月)**

**青山キャンパス**

11月
- 公務員 業務説明会
- SPI3模擬試験
- OB・OGによる仕事・業界セミナー
- 一般常識模擬テスト
- 自己分析講座
- 模擬面接／集団面接講座
- エントリーシート対策講座
- 公立学校教員選考学内説明会

12月
- 学内企業説明会
- 公務員理解セミナー
- OB・OGによる業界研究会
- 地元へ帰ろう Uターンセミナー
- 模擬グループディスカッション講座

1月
- 働く前に知っておこう
- 仕事研究セミナー「面接官の本音」

**相模原キャンパス**

11月
- 企業・工場見学会
- グループディスカッション・グループワーク
- SPI模擬試験
- 業界・職種研究
- 女子学生のためのキャリアセミナー
- 模擬面接

12月
- 先輩との相談会
- SPI講習会
- 8大学合同模擬グループディスカッション・面接
- Webテストセンター模擬試験
- 一般常識テスト

1月
- 求人票の読み方
- 先輩との相談会(教員志望者対象)
- 学科別就職ガイダンス
- 公務員試験対策講座

### 進路・就職情報の提供

**進路就職支援システム「Web Ash」**

「求人情報」、「会社説明会情報」、「内定実績」、「OB・OG(就職アドバイザー登録者)情報」「入社試験報告書」など本学独自の情報を掲載しています。また、行事欠席者のために動画配信もしています。

**資料室・資料コーナー**

上場企業をはじめとする各企業のパンフレットや就職関連の雑誌、新聞、書籍、全国の公務員資料等を揃えています。

また、情報収集用のパソコンを備え付けています。

**保護者向け就職ガイダンスの映像配信**

5月31日(土)に、青山キャンパスにて実施した「保護者のための就職ガイダンス」の映像を本学ウェブサイトにて配信しています。

http://www.aoyama.ac.jp/ヘアクセスいただき、ページ上部の「学生生活・進路」メニューよりご覧ください。

## 青山学院大学後援会報告

青山学院大学後援会は、本学の教育・研究に必要な事業を援助するために設立された支援団体です。在学生の保証人とその他有志が会員となり、会員から拠出される会費（在学生保証人分は学費に含まれています）をもって、課外活動や奨学金、傷害保険への全学生加入といった学生支援およびペアレンツウィークエンド（父母懇談会）の開催など、多岐にわたる活動を行っています。毎年度の事業内容は年1回開催の評議員会（総会）で審議・決定されます。この度、2013年度決算と2014年度予算がまとまりましたので、ここにご報告いたします。

2013年度は、体育会強化指定部（硬式野球部、ラグビー部、男子バスケットボール部、女子バレーボール部、陸上競技部）、ソフトテニス部、山岳部、フェンシング部、レスリング部、ヨット部、パワーリフティング部、ロイヤル・サウンズ・ジャズ・オーケストラの活動費用や、オール青山メサイア公演に一部補助したほか、各団体の指導者（監督、コーチ、指揮者など）への謝礼を拠出しました。2014年度もこれらの学友会活動を引き続き援助するほか、就職活動補助、ボランティア活動補助など、より充実した支援ができるように取り組んでまいります。

〈参考〉後援会費　第一部:6,000円　第二部:4,000円　大学院:3,000円

### 2013年度 決算

収入の部　（単位 円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 前期繰越金 | 11,478,746 |
| 会費収入 | 105,594,000 |
| 貸付金回収収入 | 500,000 |
| 合計 | 117,572,746 |

支出の部　（単位 円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 学生活動関係 | |
| 学友会活動補助 | 30,726,097 |
| 学友会活動指導補助 | 12,320,000 |
| 保険料 | 19,111,500 |
| 奨学金事業補助 | 20,000,000 |
| 大学行事補助 | 66,360 |
| アドバイザー・グループ会合費補助 | 655,000 |
| 教育環境整備補助 | 7,000,000 |
| 奨励金 | 0 |
| 就職活動補助 | 3,675,000 |
| ボランティア活動補助 | 537,731 |
| 後援会行事関係 | |
| ペアレンツウィークエンド費 | 16,031,518 |
| 旅費交通費 | 90,000 |
| 会議費 | 1,206,933 |
| 消耗品費 | 0 |
| 通信費 | 21,570 |
| その他 | |
| 慶弔費 | 340,000 |
| 【予備費】 | 142,800 |
| 支出計 | 111,924,509 |
| 次期繰越金 | 5,648,237 |
| 合計 | 117,572,746 |

### 2014年度 予算

収入の部　（単位 円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 前期繰越金 | 5,648,237 |
| 会費収入 | 104,718,000 |
| 貸付金回収収入 | 500,000 |
| 合計 | 110,866,237 |

支出の部　（単位 円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 学生活動関係 | |
| 学友会活動補助 | 32,000,000 |
| 学友会活動指導補助 | 12,500,000 |
| 保険料 | 18,735,850 |
| 奨学金事業補助 | 10,000,000 |
| 大学行事補助 | 1,000,000 |
| アドバイザー・グループ会合費補助 | 660,000 |
| 教育環境整備補助 | 7,000,000 |
| 奨励金 | 500,000 |
| 就職活動補助 | 4,200,000 |
| ボランティア活動補助 | 1,000,000 |
| 後援会行事関係 | |
| ペアレンツウィークエンド費 | 17,000,000 |
| 旅費交通費 | 100,000 |
| 会議費 | 1,200,000 |
| 消耗品費 | 50,000 |
| 通信費 | 50,000 |
| その他 | |
| 慶弔費 | 300,000 |
| 【予備費】 | 4,570,387 |
| 合計 | 110,866,237 |

## 2014年度 ペアレンツウィークエンド（父母懇談会）開催報告

ペアレンツウィークエンドは、大学後援会事業の一環として、在学生の保護者の皆様に本学の近況や学生の皆さんの成績・進路・就職などのご相談やご意見をお伺いするために、経験豊かな教職員が協力して説明会や個別面談を開催し、保護者の皆様により一層本学のことを知っていただくイベントです。

### 地区ペアレンツウィークエンド

7月6日（日）浜松・大阪会場を皮切りに、全国18会場において、地区ペアレンツウィークエンドを順次実施いたしました。地区会場では本学代表者による挨拶や、本学の近況報告に引き続き、進路・就職についての説明を中心に実施いたしました。昼食会は保護者の皆様と教職員の懇談の場として企画しておりますが、大多数の会場では校友会各支部のご協力を得て地元就職に関する情報もお伝えすることができました。

本年度もペアレンツウィークエンドの全日程を無事終了することができました。ご参加いただいた保護者の皆様に深く感謝いたします。

**地区別開催日程**

| 地区 | 開催日 | 参加者人数 |
|---|---|---|
| 浜松 | 7月6日(日) | 56 |
| 大阪 | 7月6日(日) | 57 |
| 青森 | 7月13日(日) | 26 |
| 広島 | 7月13日(日) | 39 |
| 高松 | 7月13日(日) | 34 |
| 新潟 | 7月19日(土) | 59 |
| 金沢 | 7月19日(土) | 37 |
| 札幌 | 7月20日(日) | 47 |
| 郡山 | 7月21日(月・祝) | 41 |
| 長崎 | 7月21日(月・祝) | 36 |
| 福井 | 7月27日(日) | 8 |
| 名古屋 | 7月27日(日) | 142 |
| 福岡 | 8月3日(日) | 107 |
| 仙台 | 8月23日(土) | 49 |
| 長野 | 8月23日(土) | 44 |
| 水戸 | 8月30日(土) | 56 |
| 米子 | 8月30日(土) | 10 |
| 鹿児島 | 8月31日(日) | 23 |
| 合計 | | 871 |

全体会風景（名古屋会場）

全体会風景（福岡会場）

懇親会風景



青山学院大学教育振興資金

# 保証人の皆様のご支援を学習環境および生活環境の改善につなげます。

日頃より青山学院大学の教育研究活動に関してご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年5月に募集いたしました「青山学院大学教育振興資金」に対して過分なるご寄付をいただきまして誠にありがとうございます。これもひとえに同振興資金募集の趣旨をご理解いただいた上でのご支援であり、身にあまる光栄と存じます。

2014年度は授業・研究室の環境改善を目指し、「授業向けAV機器等の充実」、「ICT研究装置の設置（相模原キャンパス）」、「資格試験対策講座の充実」、「インターン・シップの拡充」を重点個所として学習環境および生活環境のより一層の改善に取り組んでおります。この場をお借りして御礼申し上げますとともに、ご寄付くださった皆様方のご芳名を本誌に掲載させていただきます。

ご芳名掲載対象者 399名　ご芳名掲載者 106名　匿名者 293名

ご芳名掲載対象期間　2014年4月1日から9月10日までのご寄付者　（五十音順）

あ
青木　英之　様
赤津　信弥　様
浅野　道雄　様
安島　誠　様
安藤　清　様

い
伊海　剛志　様
池田　憲治　様
石神　猛　様
石田　潤一　様
伊藤　幹男　様
井之輪　真一　様
井門　憲俊　様
岩瀬　幸子　様

う
上江洲　初絵　様
上野　公也　様
魚谷　弘之　様
浦上　博史　様

え
榎本　勝義　様

お
大竹　光夫　様
大谷　隆司　様
岡　宏明　様
小笠原　一晴　様
小澤　修太郎　様
小澤　康雄　様
小布施　敦士　様
面川　雄司　様

か
甲藤　佳世　様
金森　伸一　様
金子　興人　様
蒲谷　修　様

き
木田　真一郎　様
北倉　克憲　様
北沢　行男　様
北畠　一枝　様
木下　由紀彦　様

く
草﨑　美穂　様
草野　耕一　様
熊木　勇　様
桑島　秀則　様
桑名　誠　様

こ
小谷　幸江　様
小堀　清　様

さ
佐々木　英治　様
佐藤　博　様
佐藤　則子　様
猿田　正祝　様

し
重光　宏之　様
芝原　俊晴　様

す
菅野　宏二　様
鈴木　一敬　様
鈴木　文和　様
鈴木　正人　様

せ
瀬尾　和義　様
関　貴志　様

た
関亦　丈夫　様
髙橋　郁夫　様
高橋　俊由喜　様
高藤　誠一　様
髙村　光一　様
竹邑　義和　様
多田　新吾　様
唯木　享　様
田中　順一　様
田中　祐次　様

ち
千葉　圭悦　様

て
豊嶋　崇徳　様
寺内　泰龍　様

な
中　達哉　様
中嶋　隆二　様
永田　潤一郎　様
中根　義雄・髙子　様
中村　篤　様
中村　俊光　様

に
西川　修　様

の
登　利美　様

は
羽賀　厚弘　様
畑中　直道　様
八田　修孝　様
林　湛秀　様
坂東　知文　様

ひ
平川　直希　様

ふ
藤井　憲治　様

ほ
堀江　淳一　様

ま
前田　達也　様
牧島　賢治　様
松井　賢治　様
松尾　純　様
松宮　正幸　様
松本　俊之　様
松本　勝　様

み
三浦　嚴嗣　様
峯尾　賀亮　様

む
村松　靖恭　様

や
山下　昌人　様
山本　秀行　様
山本　峰一　様

ゆ
行好　潤介　様

よ
横山　幸洋　様
吉岡　美嗣　様
吉田　純　様
吉田　英優　様
吉田　行男　様
吉村　喜代隆　様
吉村　俊　様

わ
若狭　佐智子　様
渡邉　王雄　様

※**前年度の払込用紙および銀行ATMを使って寄付をされた方々**につきましては、広報誌等へのご芳名公表につきまして事前に意思確認ができませんでしたので、「匿名によるご寄付」の人数に含めております。これらに該当する皆様方につきましては次回のご芳名掲載時に公表の意思確認をさせていただく予定です。希望される場合はその際にお申し出ください。（ご芳名掲載についてのお問い合わせ:政策・企画部　03-3409-9612）

# 青山学院のヴィジョン～ 梅津 順一院長 メッセージ
## ～青山学院エバーグリーン募金「使途指定型募金」のご案内～

**2014年7月1日(火)に梅津順一総合文化政策学部教授が第14代青山学院院長に就任しました。梅津院長の就任挨拶から、青山学院が目指す方向性と抱負について要約版をご紹介します。「使途指定型募金」は、学院の歴史と伝統を継承しながらも、その個性と特色をさらに活かしていくために、「教育・研究」「国際交流」「ボランティア」「スポーツ」の諸活動を“オール青山”の精神で支援することを目的としております。青山学院における教育と諸活動にご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。**

青山学院は140年の歴史の中で、米国のメソジスト監督教会をはじめ多くの方の祈りと支えと働きによって、日本を代表する総合学園、総合大学へと成長を遂げてきました。

今日は高度な知識社会であり、科学技術の発展、急速な情報化、グローバル化、さらには少子化が進んでおりますが、青山学院は新しい時代に新しいミッションとヴィジョンを掲げ、先達の志を将来に繋ぎ、社会に貢献していく私学でありたいと思います。

ジョン・ウェスレー(メソジスト運動提唱者)は、“The world is my parish.”という有名な言葉を残しました。「世界はわが教区」と訳されますが、「広い世界が私の働きの場」と訳すこともできます。まさに「広い世界が青山学院の働きの場」であり、初代院長ロバート・S・マクレイ、2代院長本多庸一が模範を示した通り、世界が一つになった現代社会にあって、学院は広い世界から学生を迎えると同時に、広い世界で活躍する卒業生を送り出していかなければなりません。

長引く経済不況、就職難を背景に、学生はインターンシップや資格取得に励んでいます。学生の就職支援が重要なのは論をまちませんが、社会の現状を無批判に受容することが教育・研究機関の取るべき態度ではありません。私共には、現状に埋没せずに、未来への夢を指し示していく教育が求められています。

お正月の箱根駅伝では、本学のランナーがフレッシュグリーンのユニフォームに身を包み活躍します。どこか爽やかでクリスチャン・スクールの雰囲気を伝えてくれるとお褒めの言葉を頂戴しますが、タスキを渡して目的地を目指して走る駅伝競技は、どこか私たちの人生を映し出すところがあります。青山学院における教育や研究も、自分一人や一つの世代で完結するものではありません。だからこそ私たちは一人一人に与えられた持ち場を走り、自分一人の夢よりも、もっと大きな夢が与えられ、前進していくことができるのです。

私も14番目のランナーとして名誉あるタスキを受け継ぎ、その責任の重さに足が震えますが、青山学院には仲間がいます。目立たないところで、誠実に働く大勢の仲間がいるから、私も安んじて走ることができるのです。

青山学院の当面の目標は創立150周年を目指して走ることです。現実をよく知り、過去に学び、使命を確認し、英知を結集して新しいページを開いていきましょう。

青山学院幼稚園には、2010年生まれの園児たちがいます。創立200周年を祝い、22世紀の夜明けを迎える人たちです。その後輩たちによりよいものを引き渡すために、私たちは与えられた課題に誠実に取り組んでいきましょう。

青山学院で学ぶ在校生、家族、同窓生、教職員、学院に関わる一人一人を、神が祝福し、支え、導いてくださることを信じ、共に歩んでまいりたいと思います。

- 本募金にご関心をお持ちの方はご連絡ください。資料をお送りします。
- インターネットからの資料請求、ご寄付も可能です。

**資料請求 問い合わせ先**

青山学院エバーグリーン募金推進本部
TEL：03-3409-6208　FAX：03-3409-3890
Mail：bokin@aoyamagakuin.jp
http://www.aoyamagakuin.jp/support/index.html
青山学院　募金　検索

## Club & Circle 24 合気道部

# 稽古を通して自己を鍛錬し、課題解決力、実行力を養えます。

合気道は、相手の力を利用して効率的に技をかける「争わない武道」で、武力によって勝ち負けを争うことがないのが他の武道と異なる点です。月、水、金、土の週4日稽古のうち3日は、合気道本部道場の入江嘉信師範をお招きしています。稽古の成果を披露する「演武大会」があり、毎年「全日本合気道演武大会」、「全国学生合気道演武大会」に参加しています。

技の一つ一つは繊細で、足の位置取りやお腹の向きのわずかなずれで、バランスが崩れ、技をかけられなくなってしまいます。日頃の稽古でも、足の位置はどこにあるべきなのか、ここに力をかけるからお腹の向きはこうでなくてはならないなど、自分で考え改善していくことが必要です。日常のさまざまな場面で“課題解決力”や“実行力”が求められますが、そうした力を合気道部で培ったと実感しています。

2011年に創部50周年を迎え、中国・上海への海外遠征を行いました。また、他大学との交流として毎年6月の合同稽古や、年に3回1泊2日で行われる講習会などにも定期的に参加しています。

師範による稽古もあるとても恵まれた環境が整っていますので、真剣に稽古したい方はもちろん、興味をもたれた方もぜひ一度道場へお越しください。

(主務：教育人間科学部教育学科4年　竹内 海里　記)

## AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内専用スタンドにて配布しています。

- バックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
- 確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きをしてください。**

発行元：青山学院大学 入学広報部
TEL.03-3409-8627

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2014青山学院大学

●2014年10月31日発行●